

研究・開発・設計部門のチーム力を強化する 「インパクト・メソッド」 無料オンラインセミナーのご案内

■ 内容

研究・開発・設計部門の仕事のやり方革新 「インパクト・メソッド」の考え方と展開事例

- ・ 現場の現実と経営問題
- ・ 仕事のやり方3大慣習と慣習の発生原因
- ・ 仕事のやり方慣習の解決方法
- ・ 解決手段としての「業務の見える化」とマネジメントとしての正しい価値観

以上について実際の事例を紹介しながらお伝えします

■ オンラインセミナー開催日（セミナーの内容は全て同じです）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ・ 11月25日（金） 13時～16時 | ・ 12月 6日（火） 13時～16時 |
| ・ 12月 2日（金） 13時～16時 | ・ 12月 9日（金） 13時～16時 |
| ・ 12月 5日（月） 13時～16時 | ・ 12月12日（月） 13時～16時 |

■ お申し込み方法

弊社ホームページのトップページの「セミナー情報バナー」よりお申込みください。
「お申込みフォーム」に必要事項をご記入の上、送信してください。
受け付け完了後、セミナー参加招待状（Zoom）をメールでお送りします。

弊社ホームページ: <https://impact-consulting.jp>



■ お問い合わせ先

株式会社インパクト・コンサルティング

担当 内田 TEL: 03-5475-1355 mail: uchida@impact-consulting.jp

〈インパクト・メソッドの考え方・導入企業事例書籍紹介〉



インパクト・メソッド
の考え方を詳説



マネジメントの入口
であるコミュニケーション
について詳説



株式会社デンソー様の
「プロジェクトの成功」と
「人と組織の成長」を
実現したマネジメント
革新事例



マネジメントに対する
考え方や価値観、行動力
に果敢に挑戦した2人の
課長の自己革新記録

御社の研究・開発・設計部門には 製品開発競争を勝ち抜く 強いチーム力がありますか？



技術部門の仕事のやり方革新のご案内

研究・開発・設計部門の仕事のやり方革新に携わり40年

トヨタ自動車様で17年間、キヤノン様で15年間、デンソー様で10年間

約500社に採用されたコンサルティングプログラムです

(プログラム名：インパクト・メソッド)

弊社HPにて事業内容及び導入実績企業等詳細を紹介させていただいております

<https://impact-consulting.jp>



ごあいさつ

技術革新が急速に進み、高い技術目標にチャレンジするなかで、厳しい製品開発競争に勝ち抜いていくためには、マネジメント革新、なかでも組織力（チーム力）を強化していくことが必要な時代になっています。

「インパクト・メソッド」は人とチーム力にメスを入れ研究・開発・設計部門の変化と成果を最大化していきます。

弊社コンサルティングプログラム「インパクト・メソッド」の考え方を紹介させていただきます。



好結果にならないマネジメントや仕事のやり方
慣習を破りガラッと変わってしまうという意味
を持たせたロゴマークです

株式会社インパクト・コンサルティング

代表取締役 倉益幸弘

職場でこんな問題はありませんか？

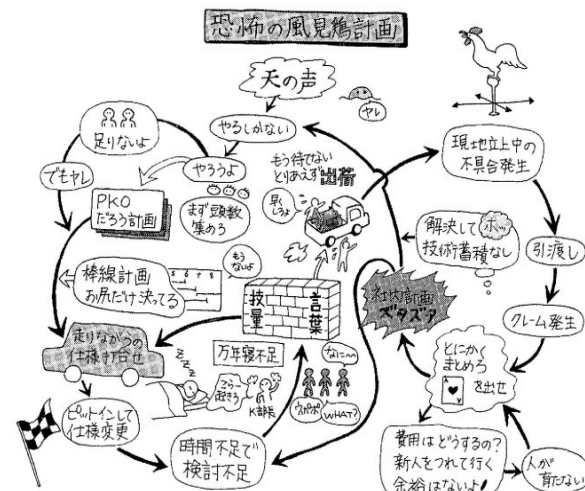
■プロジェクト・テーマ・日常業務の問題

- ✔ 目標とする納期が守れずズルズルと遅れ、事業計画に悪影響
- ✔ 目標とする納期は守れるが、いつもドタバタ仕事をしており、商品化後はトラブルが頻発
- ✔ 研究者も一生懸命やっているが、次の時代を担う成果があがってこない
- ✔ 事前に手が打てず手戻り、手直しなど後から問題が頻繁に起こる

■職場の仕事のやり方の問題

- ✔ マネジャーとメンバーのコミュニケーションがメールとリモート会議中心になっており、技術部門らしいワイガヤ技術コミュニケーションがとれていない
- ✔ 仕事が個人の能力に依存した個人商店化した仕事のやり方になっている
- ✔ アウトプットイメージがあいまいなまま仕事が始まって、手戻りの繰り返しになっている
- ✔ 負荷偏在、高負荷で検討不十分のため不具合が発生したり、納期遅れになったりの悪循環になっている

〈ドタバタした仕事のやり方になっている職場の例〉



「天の声」で仕事がスタートするが、既に悪魔のサイクルに陥っているチームは新しいプロジェクトを引き受ける余裕が全くない。それでも、事業部長は「ヤレ」の一言でスタートさせる。慢性的な人員不足、中身があいまいな「だらう計画」、不十分な事前検討、途中での仕様検討、高負荷状態、成長感不足など悪循環。原因はメンバーもわかっているが、インパクト・メソッドが導入されるまで改善することは無かった。



問題が複雑に絡み合って1つ1つ対処しても次から次へと新たな問題が起こってしまう。その結果、人と組織が疲弊している。一体どうすればよいのか？

「インパクト・メソッド」は新しいものを創る研究・開発・設計部門の業務の最大特徴である、「脳ミソを使って考え抜く」仕事に着目した考え方です。組織を構成するマネジャー、メンバーの互いの脳ミソのイメージを共有し、「仕事のやり方」や「チームマネジメント」を考え抜くことがチームを強くするスタートになります。

競争を勝ち抜くチーム力のつくり方

3つの着眼点

**新しい仕事のやり方
価値観づくり**

問題・課題解決革新

互いの脳ミソの中味を共有して事前課題解決

脳ミソフル回転による事前課題解決

コミュニケーション革新

マネジャーとメンバーでともに計画を創る
仕事段取りコミュニケーション

マネジャー
リーダー

**個人力と
チーム力の向上**

チームワーク革新

全員がリーダーシップを発揮するチームへチェンジ

チームで仕事をする

■コミュニケーション革新

- ・ 双方向・ワイガヤ・オープンマインドのコミュニケーションの実践
- ・ 脳みその中を見る化フル回転させて未来を考え抜く

■問題・課題解決革新

- ・ 仕事を始める前に目標を見える化共有
- ・ 問題が起きてからの解決から「課題の前さばき（事前解決）」の実践

■チームワーク革新

- ・ 知恵を合わせ力を合わせる団体戦の実践
- ・ 全員が自分の役割を自覚し「私言語」でリーダーシップを発揮する集団に変身

3つの革新により「ビジネスの成功」と「人と組織の成長」を同時実現します